

世界に誇ることのできる吉野川を守り 魅力を発信し、次の世代にしっかりと つなげていくことが私達の使命

この人と吉野川

吉野川交流推進会議 会長 住友 康彦さん



社長室には、河口の代表的景観が描かれた美しい油彩画が飾られています



阿波銀行のアドプト区間は「うちの土手」という愛称で行員に親しまれています



夕暮れの脇町潜水橋。山田洋次監督の映画『虹をつかむ男』でも描かれた美しい風景

福永義和さんから会長のバトンを受け取り、「当会議の会長も4代目。初代会長は銀行員時代に『支店経営は駅伝競争と同じで、自分が受け取った棒をより良い状態で次のランナーに渡すことが大切』と常々話していました。歴代会長の功績を引き継ぎ、より発展させていきたい」と引き締まった表情で語る住友康彦さん（63歳）。阿波銀カード（株）取締役社長としてご多忙のなか、吉野川への思い、就任に際しての抱負等をうかがいました。



幼い頃は魚獲りや堤防でのつくし採りで親しんだ吉野川。社会人になり、少年ラグビースクールのコーチとして河川敷グラウンドに通っていた頃は「吉野川が季節の移ろいの中で様々な美しい姿を見せてくれることに感動していました。夏には合宿で吉野川源流域の高知県本山町まで子ども達を引率していったこともありでしたね。高知のチームと交流したり、川で泳いだり、地元の花火大会に参加したりね」と懐かしそうに語ります。気がつけばすっかり柔和な笑顔に。実は住友さんは当会議の初代会長・住友俊一さんの長男。そういえば笑った目元がそっくりです。

「おすすめの風景は、脇町潜水橋を下流側の堤防から見た景色です。幼い頃からお墓参りで穴吹町に通うたび見ていたはずですが、大人になってある時、なんと美しい風景であったのだろうと気づきました」——私達は何気なく見過ごしていたり、気づいていないものがたくさんある。吉野川もそのひとつ。「吉野川の水質・水量、そして変化に富んだ流域の景観は、世界の大河と比べてもひけをとらず、それどころか世界に誇れるものです。この郷土の川を私達の手で美しく保ち、後世につないでいくという当会議の事業に真剣に取り組んでいきたい」と熱く語ってくれました。

吉野川橋ものがたり

第7回 岩津橋



吉野川には多種多様な工法・デザインの橋が架かっていますが、その中でも一際印象的なシルエットを描くのが岩津橋。吉野川市山川町一里塚～阿波市阿波町乙岩津を結ぶ橋長175mの片吊り斜張橋です。昭和期に2本の吊り橋が架けられましたが、平成5年（1993）に現在の橋が完成するにあたり撤去されました。

岩津のあたりは中流域では川幅が一番狭く、急流が青石を洗って「岩津の淵」と呼ばれる美しい景観を作っています。この地形は渡し場、川湊としても好条件で、古くから吉野川中流域

の交通の要所として栄えてきました。北岸には総高6.3mと県内最大級の常夜灯が残っており、当時の繁栄ぶりがうかがえます。常夜灯の近くには、これまた大きな石碑があります。岩津の淵には大ナマズが棲んでいるという伝説があり、碑には岩津出身の歌人・岩雲花香の歌が刻まれています。台風のために氾濫していた川を、昔の人は“大ナマズが暴れた”と例えたのでしょうか。橋のたもとには国土交通省四国地方整備局によって吉野川の水位観測所が設置されています。大ナマズが暴れないように見張っているのかもしれない。

橋のたもとに立つ岩雲花香の歌碑。神代文字で刻まれた歌は「日頃は目立たずとも、ひとたび事ある時には社会に貢献できる人物になつてほしい」という意味だとか



元 杉尾神社境内に立つ巨大な石造りの常夜灯